

## ◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(40歳代女性)あります。本年の累積報告数は2例となっています。発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。  
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)  
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- アメーバ赤痢の報告が2例(40歳代男性1例, 80歳代女性1例)(第20週・第21週追加各1例)あります。本年の累積報告数は10例となりました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が5例(10歳未満女性1例, 30歳代男性1例, 60歳代・70歳代・80歳代女性各1例)(第20週追加1例, 第21週追加4例)あり、本年の累積報告数は36例となっています。
- 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.64(27例)となり、京都市過去5年平均値を上回る状況が続いています。全国では報告数が急増しています。

## ◆ 今週のトピックス:<手足口病>

- 京都市における手足口病の定点当たり報告数は4.43(186例)で、先週の3.31(139例)から増加しました。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 二類:結核 7例(肺結核 3例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 なし  
【1月以降の累積報告数 156例(肺結核 79例, その他結核 19例, 潜在性結核感染者 58例)うち喀痰塗抹陽性 37例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- 五類:アメーバ赤痢 2例(腸管アメーバ症 1例, 腸管及び腸管外アメーバ症 1例)(第20週及び第21週追加報告各1例)【1月以降の累積報告数 10例】
- 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 5例(第20週追加報告分1例及び第21週追加報告分4例)【1月以降の累積報告数 36例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点42, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.09	6
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	8.14	342
	② 手足口病	4.43	186
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.62	68
	④ 咽頭結膜熱	0.64	27
	⑤ ヘルパンギーナ	0.62	26
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

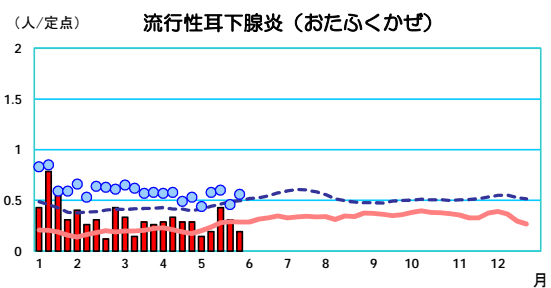
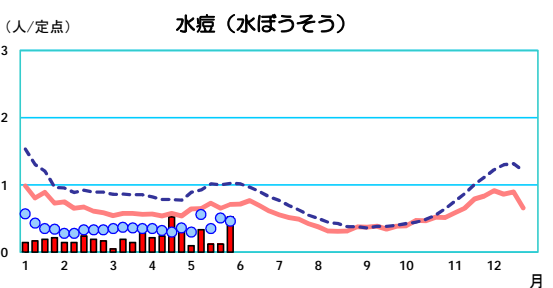
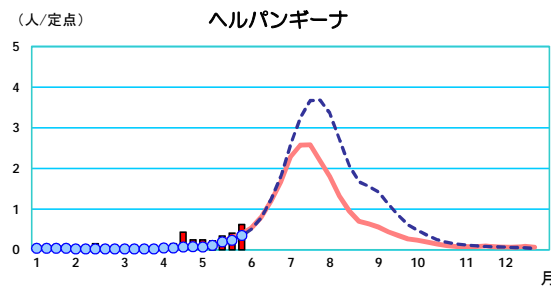
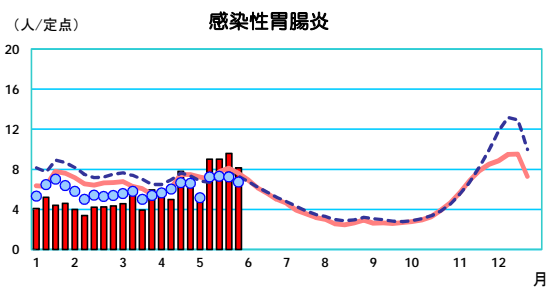
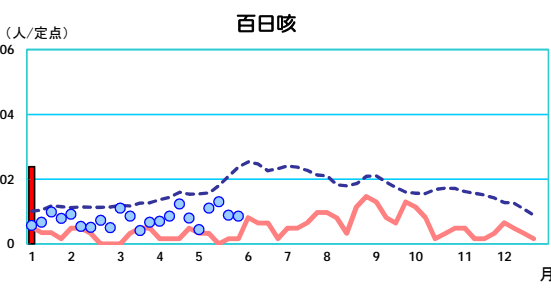
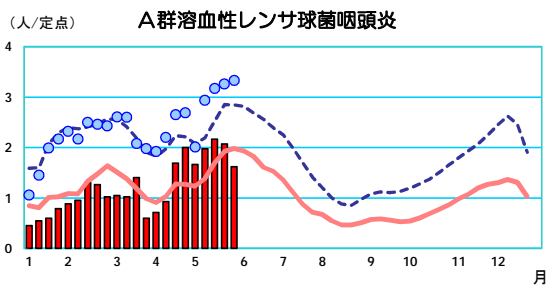
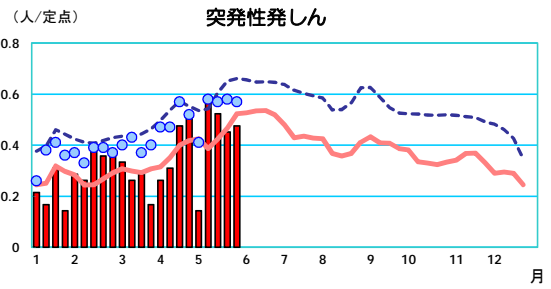
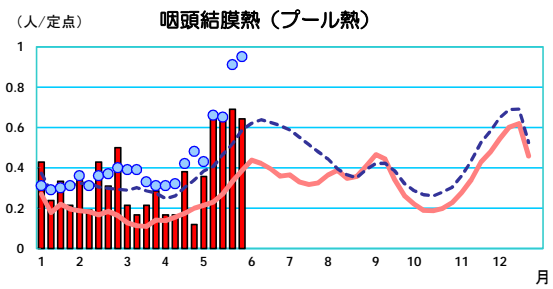
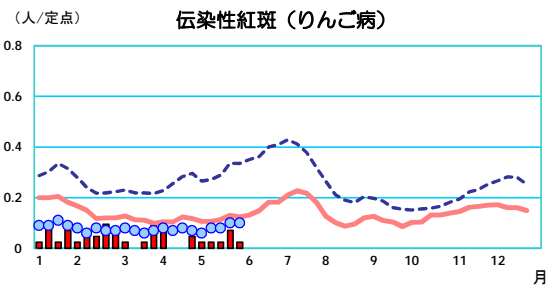
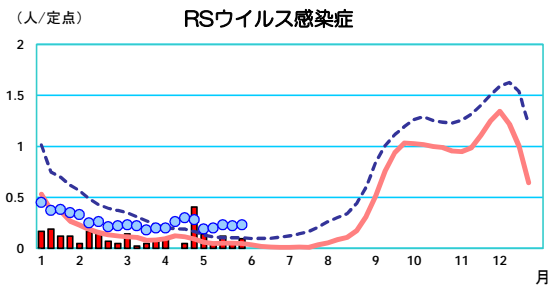
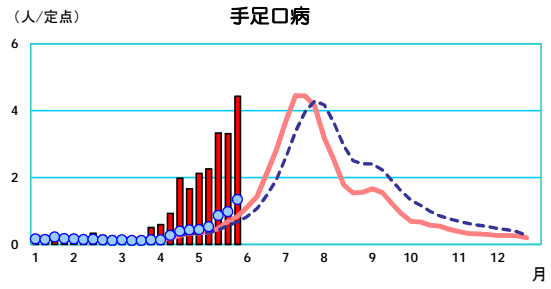
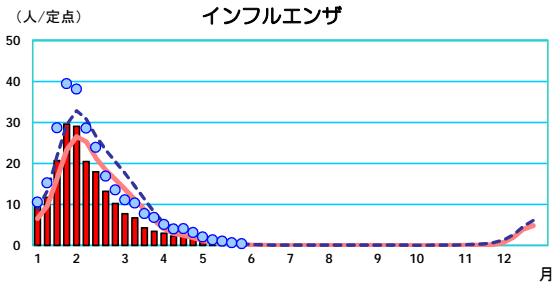
### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<手足口病>

付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは、平成29年6月7日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

# インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成29年）



## 第22週(5月29日～6月4日)トピックス: <手足口病>

京都市における手足口病の定点あたり報告数は4.43(186例)で、先週の3.31(139例)から増加しました。第13週に本市の過去5年平均値を上回り、特に第15週以降はかなり上回る状況が続いています(図1)。

京都市の各行政区の定点あたり報告数を見ると、左京区、南区、右京区及び伏見区で警報開始基準値である「5」を超えています(図2)。基準値を超えた行政区だけでなく、他の行政区でも十分な警戒が必要です。

手足口病に罹患するのは、就学前6歳未満の小児がほとんどで、過去5年間(平成24年から平成28年)の年齢別割合では全国、京都市共に6歳未満が約9割となっています。本年第22週までの京都市における報告では、6歳未満が97.0%、中でも0歳～2歳が86.4%と圧倒的に多くの割合を占めていますので、現時点ではこの年齢層の乳幼児に特に注意を払ってください(図3)。

手足口病の予防には手洗いが効果的ですが、3歳に満たない乳幼児では一人で手洗いは難しいと考えられます。まめに手や口の周囲を拭いたりしてきれいにしましょう。それに加えて、おもちゃなど子どもの口や手に触れるものを清潔に保つことや、周りの大人の手洗い、特に排泄物処理後の手洗いがとても重要です。一方、3歳から5歳頃の小児は自分で手洗いをし始める時期です。保護者や施設職員等による指導・確認で確実に予防しましょう。効果的な動機付けを行って手洗いの習慣をつけることで、他の感染症に対する予防にもなります。

図1 京都市と全国の流行状況

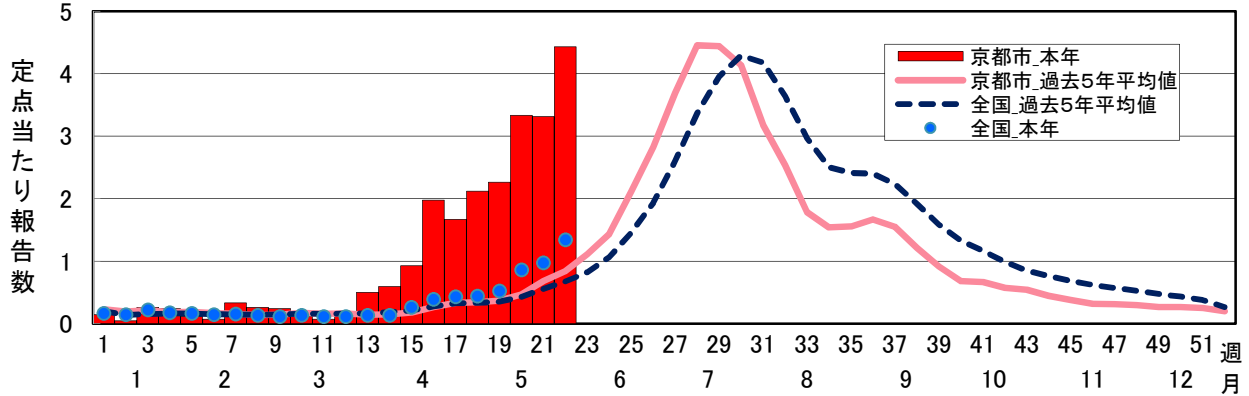


図2 京都市の行政区別定点あたり報告数の推移

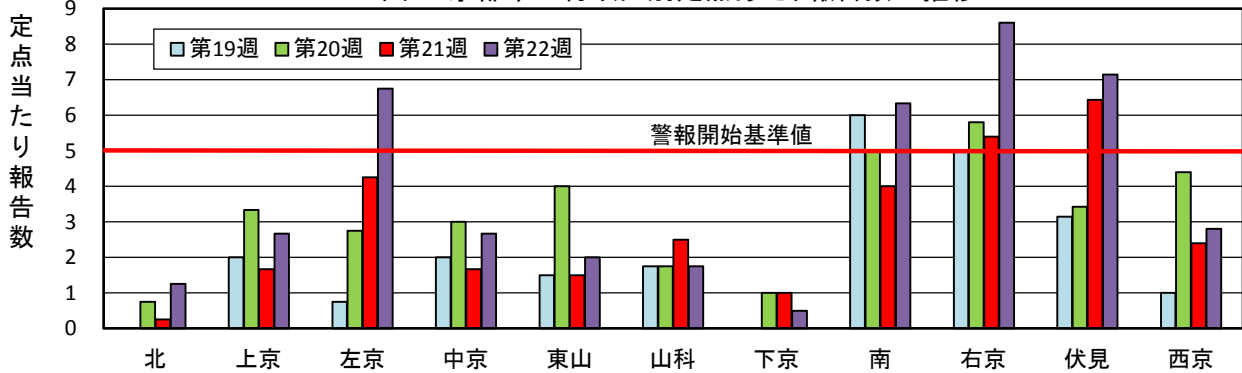
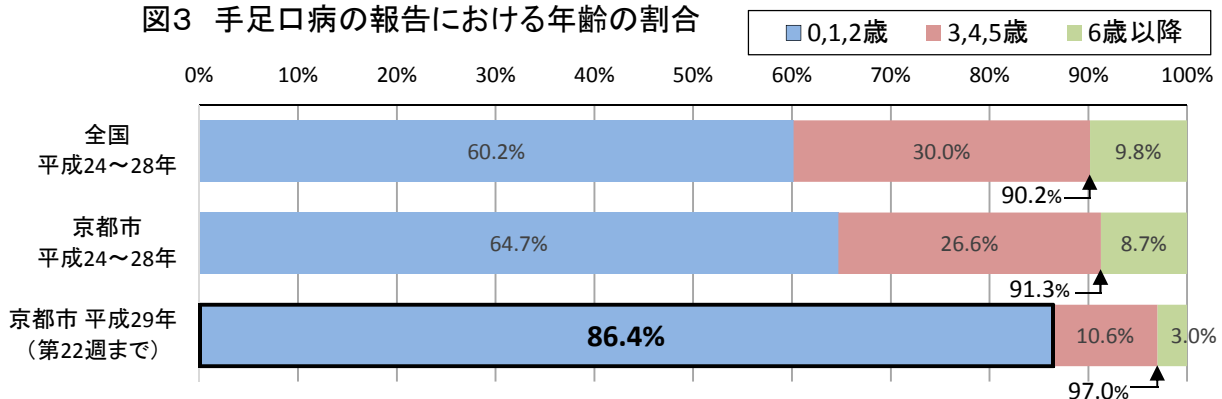


図3 手足口病の報告における年齢の割合



T3201

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成29年第22週

疾病,行政区別報告数

平成29年5月29日～平成29年6月4日

データ入手日:平成29年6月7日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)	
男女合計																				
北	-	-	-	-	7	-	5	-	-	-	-	1	-	1						
上京	-	-	5	3	4	-	8	-	1	-	1	-	-	-						
左京	3	2	-	9	32	10	27	-	1	-	1	-	-	-						
中京	1	-	-	2	12	-	8	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	1	-	3	21	1	4	-	1	-	-	-	-	-						
山科	-	-	6	7	2	3	7	-	2	-	2	2	-	-						
下京	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-						
南	2	-	1	1	27	1	19	1	2	-	6	-	-	-						
右京	-	1	10	18	74	-	43	-	-	-	2	3	-	1						
伏見	-	-	2	19	116	6	50	-	10	-	4	2	-	-						
西京	-	-	3	6	47	1	14	-	1	-	6	-	-	-						
京都市計	6	4	27	68	342	22	186	1	20	-	26	8	-	2	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)	
男女合計																				
北	-	-	-	-	1.75	-	1.25	-	-	-	-	0.25	-	1.00						
上京	-	-	1.67	1.00	1.33	-	2.67	-	0.33	-	0.33	-	-	-						
左京	0.43	0.50	-	2.25	8.00	2.50	6.75	-	0.25	-	0.25	-	-	-						
中京	0.20	-	-	0.67	4.00	-	2.67	-	0.67	-	1.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	0.50	-	1.50	10.50	0.50	2.00	-	0.50	-	-	-	-	-						
山科	-	-	1.50	1.75	0.50	0.75	1.75	-	0.50	-	0.50	0.50	-	-						
下京	-	-	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-						
南	0.40	-	0.33	0.33	9.00	0.33	6.33	0.33	0.67	-	2.00	-	-	-						
右京	-	0.20	2.00	3.60	14.80	-	8.60	-	-	-	0.40	0.60	-	1.00						
伏見	-	-	0.29	2.71	16.57	0.86	7.14	-	1.43	-	0.57	0.29	-	-						
西京	-	-	0.60	1.20	9.40	0.20	2.80	-	0.20	-	1.20	-	-	-						
京都市計	0.09	0.10	0.64	1.62	8.14	0.52	4.43	0.02	0.48	-	0.62	0.19	-	0.20	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。



集計対象:平成29年第22週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成29年6月7日

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		177	71	45	22	15	6
RSウイルス感染症		17	6	2	5	2	4
咽頭結膜熱		5	15	28	27	29	27
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		84	70	83	91	87	68
感染性胃腸炎		287	227	378	379	403	342
水痘		13	4	14	5	5	22
手足口病		70	89	95	140	139	186
伝染性紅斑		2	1	1	1	3	1
突発性発しん		22	6	24	22	19	20
百日咳		-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		10	10	9	14	17	26
流行性耳下腺炎		12	6	8	18	13	8
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		3	2	6	3	4	2
細菌性髄膜炎 (※2)		-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-
合計		702	507	693	727	736	712

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		2.57	1.03	0.65	0.32	0.22	0.09
RSウイルス感染症		0.40	0.14	0.05	0.12	0.05	0.10
咽頭結膜熱		0.12	0.36	0.67	0.64	0.69	0.64
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.00	1.67	1.98	2.17	2.07	1.62
感染性胃腸炎		6.83	5.40	9.00	9.02	9.60	8.14
水痘		0.31	0.10	0.33	0.12	0.12	0.52
手足口病		1.67	2.12	2.26	3.33	3.31	4.43
伝染性紅斑		0.05	0.02	0.02	0.02	0.07	0.02
突発性発しん		0.52	0.14	0.57	0.52	0.45	0.48
百日咳		-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.24	0.24	0.21	0.33	0.40	0.62
流行性耳下腺炎		0.29	0.14	0.19	0.43	0.31	0.19
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		0.30	0.20	0.60	0.30	0.40	0.20
細菌性髄膜炎 (※2)		-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-
合計		15.29	11.56	16.54	17.33	17.69	17.05

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。